

2026 年 2 月 13 日
日本銀行決済機構局

第 5 回 C B D C フォーラム全体会合の議事概要

1. 開催要領

(日時) 2026 年 1 月 29 日 (木) 14 時 00 分～15 時 10 分
2026 年 1 月 30 日 (金) 11 時 00 分～12 時 00 分
(形式) W e b 会議形式

2. 日本銀行からの説明等

- 事務局から、パイロット実験の進捗状況や C B D C を巡る海外の動向¹、C B D C フォーラムの今後の運営²について説明を実施。その後、質疑応答を行った。

3. 主な質疑等

(参加者) 現在 7 つのワーキンググループ (W G) を 3 つのディスカッショングループ (D G) へ再編し、横断的な議論を行っていくことは賛成である。ただし、全ての D G に参加するにはスケジュールの調整が難しい可能性も考えられるため、複数の D G に関連するテーマを議論する場合は、D G の垣根を越えて議論ができる場を設けていただけるとありがたい。

(事務局) 現在の W G でも、複数の W G に関連するテーマを議論する場合には共同で会合を開催してきたように、今後開催する D G においても、重複するトピックや複数の D G が関係するテーマを議論する場合には、共同開催も視野に入れた横断的な運営を行っていきたい。

(参加者) C B D C の具体的なユースケースを定め、実現のための課題整理や運用フローの検討を進めている国もある。D G においても、こうした取り組みを参考に、具体的なユースケースを設定し、検討を進めるのも一案ではない

¹ https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/dfo260203b.pdf 参照

² https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/dfo260203a.pdf 参照

だろうか。

(事務局) C B D Cの検討が徐々に進み、解像度が高くなっていくことで、必然的に具体的なユースケースを設定する段階に移行し、社会実装に向けた具体的なタスクも明確になっていくと思われる。日本銀行からも引き続き情報発信を行いながら、具体的なユースケースを想定し、さらに議論を深めていきたい。

(参加者) ステーブルコインやトークン化預金をはじめ、分散型台帳技術(DLT)を活用した新たなテクノロジーが台頭している。世界的な潮流を踏まえつつ、こうした技術をどのように活用し、連携を進めていくかについて、より積極的に議論できるとありがたい。

(事務局) 新たなテクノロジーに関する分野は、ますます重要性を増しており、様々な検討を行っていく必要があると認識している。今後もこれまで以上に、皆様と議論を重ねていきたい。

以 上